

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：労働費 項：職業訓練費 目：職業訓練校費

### 事業名 国際たくみアカデミー移住・定住者支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部労働雇用課職業能力開発係 電話番号：058-272-1111(内3668)

E-mail：c11367@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,002 千円 (前年度予算額：1,002 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,002	1,002	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,002	0	0	0	0	0	0	0	1,002
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

国際たくみアカデミーは、実践的な技能・技術や専門知識を学ぶ公共職業能力開発施設であるが、知名度が低いため、入校生の確保や地域連携が課題となっている。

このため、美濃加茂市が移住・定住用のプラットホームとして活用している古民家において「古民家再生ワークショップ」を実施し、移住・定住者への支援を行いながら地域振興に貢献する。また校内においても「D I Yワークショップ」を展開し、国際たくみアカデミーの知名度向上を図る事業とする。

### (2) 事業内容

#### ①古民家再生ワークショップ（年2日実施）

移住・定住者が、国際たくみアカデミーおよび業界団体等の指導の下、美濃加茂市所有の古民家の一部を国際たくみアカデミーの生徒と協働して再生しながら、大工作業や左官作業の技術を習得する。

#### ②D I Yワークショップ（年2日実施）

移住・定住者が、国際たくみアカデミーおよび業界団体等の指導の下、リフォームにおける簡易的な壁や床の改修技術を習得する。

(3) 県負担・補助率の考え方  
県負担

(4) 類似事業の有無  
無

### 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	168	外部講師費用 (@4,200×5h×2人×4日)
旅費	19	岐阜・美濃加茂往復 (@2,331×2人×4日)
消耗品費	642	D I Yワークショップ、木工セミナー材料費等
委託料	110	木材の乾燥、製材等
役務費	63	役務費：産廃30千円 保険料：参加者33千円
合計	1,002	

### 決定額の考え方

#### 4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ  
若手職員からの事業アイデアより実施。

(2) 後年度の財政負担  
美濃加茂市との連携事業とすることで、地域貢献につながる。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

国際たくみアカデミーの職員の技術及び訓練で生徒が取得した技術を、岐阜県への移住・定住者への支援に活用することで、地域貢献及び知名度向上を図り入校生の増加につなげる。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名： 定員充足率	事業開始前 (R2)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
入校者人数 住宅建築科	15	20	20	20	20	50%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	令和3年度開始事業
令和 3 年度	木工セミナー 参加者11名×2日 DIYワークショップ 1日目 参加者11名 2日目 参加者12名 圏域のテレビ局（CCネット）においてワークショップの様子の放映があり広報面で一定の成果があった。特に参加者以外から国際たくみアカデミーでのワークショップの広報を見たと言がけがあったことから今後の成果が期待されている 指標① 目標：20人 実績：10人 達成率：50%
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 2	働き方改革の推進や女性など多様な働き手の育成等の観点から職業訓練の重要性が高まっている。国際たくみアカデミーは、技術力を活かした地域貢献を行うことで知名度向上を図り、入校生の確保につなげていく取組みの必要性が高くなっている。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	D I Yと左官ワークショップにて、応募定員を確保していることから、移住・定住者への支援及びたくみアカデミーのPRができている。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 1	移住者・定住者の参加を見込んで計画した。この事業の定員は充足することはできた。参加者には国際たくみアカデミーのPRを実施し、知名度向上につなげた。

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 移住・定住者の支援、たくみアカデミーの知名度向上のためには、事業への参加者を増やすことが必要である。</p>
---

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 参加人数や参加者の満足度、国際たくみアカデミーの入校者数の推移等をもとに、事業の継続の可否を検討していく。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	
--	--